

この「校長室だより～燦燦～」の取組を始めたのは、梁川高校に勤務していたときからである。令和3年4月1日から福島市立野田中学校に勤務することになり、梁川高校では3月末にホームページにアップした第333号が最後となった。タイトルが燦燦なので、333にした。そうなるように、3月は週末の土日にもアップした。そこまでして333にこだわった。その時点では、野田中学校でも、この取組を続けようとは考えてはいなかった。野田中学校のホームページの状況もわからなかった。このまま終了してもかまわないという思いで333にしたのである。

ところがである。悲しいかな、野田中学校に勤務するようになり、すぐに書きたくなった。それだけの素材が溢れていた。何百人という今までの読者の方の存在も気になった。そういうわけで、何事もなかったかのように、第334号から野田中学校のホームページにアップするようになった。今までとの違いは、金曜日にアップする「校長通信」である。これは生徒向けの文章になっている。紙媒体で配布もしている。

野田中学校での取組を始めたのはいいが、特段、反応というものはなかった。ところが、4月下旬だったろうか。ある保護者の方が私に声をかけてくださった。その方がKさんである。「校長先生からのお便り、毎日読んでいます。全部ファイルしておいて、娘が卒業するときに渡そうかと思っています」どれほどありがたかったか。どれほど励まされたことか。救われた気がした。

そこからである。不思議なもので、様々な方面から反応が寄せられるようになった。「このまま続けてもいいようだ」そう思うことができた。

Kさんは、PTAの役員を務めてくださっていた。そのため、その後もお会いする機会があった。娘さんの部活動でもお会いすることがあった。その度に、校長室だよりのことを話題にさせていただいた。毎回、よく読んでくださっていると感心させられた。

今年の4月28日（木）には、授業参観とPTA学年懇談会があった。Kさんにお会いできる日である。会が終わった後で、Kさんが校長室に来てくださった。高校に入学した娘さんも一緒である。あるものをいただいた。「たらの芽」である。この校長室だよりを読んでくださっている方ならば、おわかりだろうと思う。たらの芽には意味がある。Kさんならではの粋な計らいである。

娘さんの高校生活のことなど、いろいろな話をした。たらの芽を天ぷらにして、おいしくいただいたのは言うまでもない。からっと天ぷらにしてくれた家人に、Kさんと娘さんのことを熱心に話したことは、もちろんである。

この校長室だより～燦燦～は、Kさんのような方々に支えられている。Kさんには、中学2年生の娘さんもいる。まだまだ読者を続けていただけるだろう。心強い限りである。